

春日組 「音頭」の歌詞

春日組では、歌の呼び名として「音頭」を用いていたので、タイトルの表記を「音頭」としている。

ここに示す歌詞は、調査の際に「得意な歌」「グループ独自の歌」「雰囲気を考えて歌う歌」などと依頼して、歌われた歌の歌詞である。

『伊勢音頭調査報告書』の中の「御坊祭の〈伊勢音頭〉」（以下、「報告書本文」）では、歌われた歌詞の「歌い出し」を記すことで表7にまとめ、歌詞の概観を行った。表7では、歌のふしの種類によって、「短い歌」「長い歌（紀小竹組にのみ「ながうた」という独自の呼び名がある）」「つなぎ歌（引き継ぎ歌、受け取り歌）」をまとめて示したが、ここでは、収録の際の歌われた順に示している。（歌のふしの種類については、「報告書本文Ⅱの表3」参照）。

なお、表記は、歌詞は黒字で、囃しことばは、音頭取りを赤字で、乗り子を青字で行っている。

歌詞のみ（囃し無）

◎歌い手（昭和 59 年生）

長い歌：黄金花咲く 稲穂の祭り 南国紀州の名物は 御坊の祭りの伊勢音頭 豊年祝いの祭り歌 歌にもいろいろ数あれど 三橋（みはし）三波（みなみ）とほしかわり 王将村田で花が咲き 今じゃ河内の鉄砲節 これにも勝りしひと節は祭り太鼓のバチ音に 歌ははやせよ伊勢音頭 豊年祭りのひとときを 酔った若衆の勇み肌 今日も酒酒（さけさけ） 明日も酒よ

長い歌：今年や豊年だ 楽しい祭り 祭り囃子の笛の音 ちょっと先は暗闇と 地獄とばける天災に 北海道から九州と 小さい島の我が日本 昨日（きのう）と今日とまた明日（あす）も 台風水害地震まで 爆発生き埋め山崩れ 数え切れない事故ばかり 天災無ければ人災と 無謀にはやる恐ろしさ 空や海にとバカンスも 夢も一寸先は 地獄絵図

◎歌い手（昭和 32 年生）

長い歌：目出た目出たの 春日の若衆 四十余年の時を経て 夫婦（めおと）雀が舞い降りて オンとメンとの向かい羽（ばね） 二羽の雀のいうことにや みんな待ってた秋祭り 祝い音頭に任せまして とともに白髪が生えるまで 舞って見せます春日組 待ってておくれよ皆の衆 春日道中練り歩き これから向かうは八幡宮 春日若衆の晴れ姿 これが春日の心意気 今日の祝いを幾年（いくとし）も 栄え栄えて 秋祭り

長い歌：御坊祭は 数ある中で 人を見たけりゃ秋祭り 昭和平成四十年 長きにわたって春日組 組の印の雀さえ 鳴き声忘れてしまったが 市制施行（せこう）の五十年 記念の年に復活を 果たしたるのがうれしくて 二羽の雀が鳴いたと

さ 幟の若衆も勇ましく 背(せな)の雀に励まされ 見事揚げます空高く 風
にゆられてゆらゆらと 今日の喜び幾年(いくとし)も 揺れて揺られて 秋祭
り

◎歌い手(昭和48年生)

長い歌:各地名所の 日本の祭り 北の札幌雪祭り 津軽青森ねぶた祭(さい) 秋田
提灯竿灯祭(さい) 宮城仙台七夕か 京の都の祇園祭(さい) 水の浪速は天
神祭(さい) 九州博多のどんたくに 四国高知のよさこいと 紀州御坊の 秋
祭り

長い歌:花を集めて 甚句にとけば 正月ことぶく福寿草 二月に咲くのか梅の花 三
月桜や四月藤 五月あやめやかきつばた 六月牡丹に舞う蝶や 七月野山に咲
く萩の 八月お盆で蓮の花 桔梗刈萱女郎花(ききょうかるかやおみなえし)
冬は水仙玉椿 あまた名花のある中で 自慢で抱えた太鼓腹 繻子(しゅす)の
締め込み馬簾つき 雲州束ねの櫓鬘 清めの塩や化粧水(けしよみず)も 四股
踏みなら土俵(どひょ)の上 四つに組んだる雄々(ゆう)しきは これぞまこ
との 国の花

歌詞（囃し有）

◎歌い手（昭和 59 年生）

ヨーイヤッサイ

サーヨーイサーエ黄金花咲くヨ ヨイヨイ 稲穂の祭りヨ サーヨーイセーコラセ
南国紀州の名物は ソーレ 御坊の祭りの伊勢音頭 ソーレ 豊年祝いの祭り歌 ソー
レ 歌にもいろいろ数あれど ソーレ 三橋（みはし）三波（みなみ）とほしかわり
ソーレ 王将村田で花が咲き ソーレ 今じゃ河内の鉄砲節 ソーレ これにも勝りし
ひと節は ソーレ 祭り太鼓のバチ音に ソーレ 歌ははやせよ伊勢音頭 ソーレ 豊
年祭りのひとときを ソーレ 酔った若衆の勇み肌 ソーレ 今日もナーエ酒酒（さけ
さけ）ヨイトコーレサエ 明日（あす）も酒よ ソラヨートコセ エエヨーイヤナ ソ
リャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイサーエ今年や豊年だヨ ヨイヨイ 楽しい祭りヨ サーヨーイセーコラセ
祭り囃子の笛の音 ソーレ ちょっと先は暗闇と ソーレ 地獄とばける天災に ソー
レ 北海道から九州と ソーレ 小さい島の我が日本 ソーレ 昨日（きのう）と今日
とまた明日（あす）も ソーレ 台風水害地震まで ソーレ 爆発生き埋め山崩れ ソ
ーレ 数え切れない事故ばかり ソーレ 天災無ければ人災と ソーレ 無謀にはやる
恐ろしさ ソーレ 空や海にとバカンスも ソーレ 夢もナーエ一寸先はヨイトコーレ
サエ 地獄絵図ヨ ソラヨートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コ
レバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（昭和 32 年生）

サーヨーイサーエ目出た目出たのヨ ヨイヨイ 春日の若衆ヨ サーヨーイセーコラセ
四十余年の時を経て ソーレ 夫婦（めおと）雀が舞い降りて ソーレ オンとメンと
の向かい羽（ばね） ソーレ 二羽の雀のいうことにゃ ソーレ みんな待ってた秋祭
り ソーレ 祝い音頭にませまして ソーレ とともに白髪の生えるまで ソーレ 舞っ
て見せます春日組 ソーレ 待ってておくれよ皆の衆 ソーレ 春日道中練り歩き ソ
ーレ これから向かうは八幡宮 ソーレ 春日若衆の晴れ姿 ソーレ これが春日の心
意気 ソーレ 今日の祝いを幾年（いくとし）も ソーレ 栄えナーエ栄えてヨイトコ
ーレサエ秋祭りヨ ソラヨートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コ
レバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイサーエ御坊祭はヨ ヨイヨイ 数ある中でヨ サーヨーイセーコラセ 人を
見たけりゃ秋祭り ソーレ 昭和平成四十年 ソーレ 長きにわたって春日組 ソーレ
組の印の雀さえ ソーレ 鳴き声忘れてしまったが ソーレ 市制施行（せこう）の五
十年 ソーレ 記念の年に復活を ソーレ 果たしたるのがうれしくて ソーレ 二羽
の雀が鳴いたとき ソーレ 幟の若衆も勇ましく ソーレ 背（せな）の雀に励まされ

ソーレ 見事揚げます空高く ソーレ 風にゆられてゆらゆらと ソーレ 今日の喜び
幾年(いくとし)も ソーレ 揺れてナーエ揺られて ヨイトコーレサエ 秋祭りヨ ソ
ラヨートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨー
イトセ

◎歌い手(昭和48年生)

サーヨーイナーエ各地名所のヨ ヨイヨイ 日本の祭りヨ サーヨーイセーコラセ 北
の札幌雪祭り ソーレ 津軽青森ねぶた祭(さい) ソーレ 秋田提灯竿灯祭(さい)
ソーレ 宮城仙台七夕か ソーレ 京の都の祇園祭(さい) ソーレ 水の浪速は天神
祭(さい) ソーレ 九州博多のどんたくに ソーレ 四国高知のよさこいと ソーレ
紀州ナーエ御坊のヨイトコーレサエ 秋祭りヨ ソラヨートコセ エエヨーイヤナ
ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイトセ

サーヨーイナーエ花を集めてヨ ヨイヨイ 甚句にとけばヨ サーヨーイセーコラセ
正月ことぶく福寿草 ソーレ 二月に咲くのか梅の花 ソーレ 三月桜や四月藤 ソー
レ 五月あやめやかきつばた ソーレ 六月牡丹に舞う蝶や ソーレ 七月野山に咲く
萩の ソーレ 八月お盆で蓮の花 ソーレ 桔梗刈萱女郎花(ききょうかるかやおみな
えし) ソーレ 冬は水仙玉椿 ソーレ あまた名花のある中で ソーレ 自慢で抱え
た太鼓腹 ソーレ 繻子(しゅす)の締め込み馬簾つき ソーレ 雲州束ねの櫓鬘 ソ
ーレ 清めの塩や化粧水(けしよみず)も ソーレ 四股踏みなら土俵(どひょ)の上
ソーレ 四つに組んだる雄々(ゆう)しさは ソーレ これぞナーエまことのヨイトコ
ーレサエ 国の花ヨ ソラヨートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ
コレバンヨイ ソラヨーイトセ

ヨーイヤッサイ

ヨーイヤッサイ

ヨーイヤッサイ